

白川町全域（白川地区・白川北地区・佐見地区・黒川地区・蘇原地区）

令和2年度

【地域の概要】

- 白川町は、岐阜県の中南部にある加茂郡の東部に位置する人口8千人余りの町で、町全体の面積の約88%が山林である。また、河川流域により佐見地区、黒川地区、白川地区、白川北地区、蘇原地区の5地区に分けられ、町全体の農地は約950haあり、現在はそのうちの約2割が担い手に集積されている。
- 基幹作物は、水稲、夏秋トマトのほか、集落営農組合が作付けする大豆があげられる。
- 主要な担い手には6つの農事組合法人と3つの集落営農組織（任意）が存在し、個人では有機農業を営む（特非）ゆうきハートネットを中心とした担い手や、夏秋トマトの経営をする担い手も存在する。また、今年度から新たな民間企業が農業参入し、加工用のトマトの作付けを中心として地域農業の担い手となった。

取組開始前の状況や課題

- 人口の減少や高齢化が大きな課題であることは明らかな中で、農業における影響や今後の状況などの話し合いの場がない。
- 農地として残すべきところ、守るべきところが明確になっていない。
- 地区によって担い手となる経営体数に差がある。そういった現状について地域が把握していない。
- 後継者はいるが、後継者の意向がわからないという事例が多い。（家族の中でも話し合っていない）

取組内容

- 5～9月：利用意向調査
 - ・1108戸（農地面積650ha）に対し、意向調査のアンケートを実施
 - ・農業委員会で人・農地プランに関する研修会を開催。アンケート内容については研修会内でそれぞれ地区の実状に合わせた内容を検討し作成
 - ・回収：約850戸（農地面積510ha）
- 10月～12月：地図作成
 - ・アンケートから得た内容を現在の状況、未来の意向に整理し、2種類の地図を作成
- 1月：地域の話し合い
 - ・新型コロナウイルスの状況も鑑み、地域の意向や状況を把握し、農業委員・推進委員のみで地域の話し合いを行った。
- 3月：人・農地プラン検討会及びプラン公表
 - ・ここまで話し合った内容や、新たに担い手となる方の情報をもとに検討
 - ・検討会で話し合った内容に基づき最新の人・農地プランの公表を行う

<アンケート>



<話し合いの様子>



今後の展開と方向性

○地図の更新

農地の利用意向が回収できていない農地については委員による戸別訪問、もしくは紙面による聞き取りを行う。また意向の変更等、定期的に最新の地図へと更新をしていく。

○集落単位での話し合い

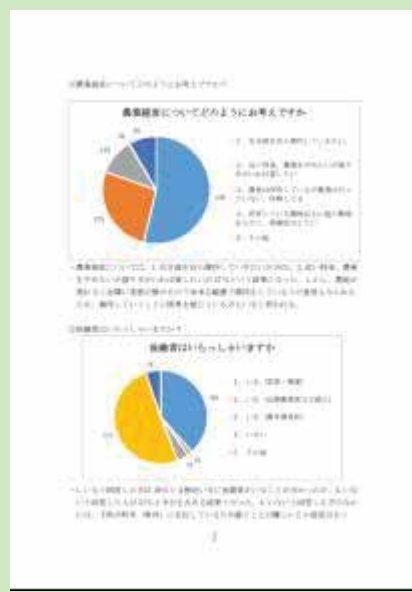
地区全体での話し合いも必要だが、より細かい営農エリア単位での話し合いを農業委員・農地利用最適化推進委員会を中心に行う。

- ・既に担い手がいる地区については農地集積が進むよう、地域の意向を再度確認し、マッチングを図っていくための話し合いを行う。
- ・担い手が不足している地区については将来に対する課題等について地域で話し合い、守るべく農地の明確化と今後の対策を検討していく。

○担い手の確保・育成

担い手のいない地区においては担い手の確保が急務となっている。新規就農者へ対する農地のあっせんや、新たな企業参入の促進ができるよう引き続き地域の実状を把握していく。また、集落営農組織の法人化や規模拡大を図っていく上でも農業委員・推進委員会による地域農地所有者への意向を確認し続けていく必要がある。

<アンケート結果（抜粋）>



<佐見地区地図>

(上から索引・現在・将来)

